

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ライオン		2026年3月25日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		十分なスペースを確保しています。活動内容に応じて部屋を分け構造化を行うなど工夫をしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		配置基準以上の職員を配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		活動に合わせて構造化したり、靴箱や荷物入れに子どもごとにマークを用いるなど子どもがわかりやすいように工夫しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日の掃除行い、季節ごとや大掃除をする機会を持っています。補修・破損箇所があったときは速やかに対応しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		個室があり個別活動や落ち着く時間をとる等必要に応じて大人と一緒に利用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		日々の打ち合わせ、やクラス会議等で定期的に振り返りを行うことで、業務の改善に努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		年に一回、保護者向け評価表を用いて保護者の意向の把握、改善につなげています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		GSVやパート職員も参加出来る毎週のクラス会議などで意見を把握する機会を設けて業務改善に努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		年代別研修、階層別研修、部門別研修などを行っています。様々な研修があり参加の機会が保障されています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムを作成しました。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		療育、定期的な面談を通して子ども・保護者のニーズをくみ取り、またクラスでの子どもの様子を共有しアセスメントを行いました。アセスメントをもとに個別支援計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画作成会議を行い、子どもに関わる職員が共通の理解を持ったうえで支援を行いました。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		クラス職員が個別支援計画に基づく支援計画をGSVやクラス会議などを通して共有し、支援を行いました。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		発達段階を踏まえた上でのアセスメント、モニタリングを行いました。クラス職員で、情報共有を行うことで確認をしています。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		ガイドラインに沿って必要な項目をすべて設定して作成しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		クラス会議等で、活動プログラムの立案を行いました。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		季節の遊び（水遊びや雪遊び等）や季節の制作、発達に合わせた活動を立案しました。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個々の特性を合わせて、個別活動と集団活動を取り入れて支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		その日の体制や内容を職員・パートで確認して、役割分担を明確にして行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		日々の振り返りを行っています。気付いた点や改善すべき点を職員間で話し合い共有して次の支援につなげています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		毎日の記録を取っています。子どもの様子や支援者の関わり方など職員間で情報を共有して業務の改善に努めました。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>		半期に一度モニタリングを行い、支援内容が適当であるか見直し改善に努めています。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて、子どもの支援に関わっている職員が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて、むぎのご発達クリニックと連携しました。また、幼稚園や保育園などの関係機関とも連携する機会を持ち支援を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		併行利用の子どもの保育園や幼稚園と必要に応じて電話連絡や訪問を行い、相互の情報共有をしながら支援を行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		就学の子どもはいませんでした。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援センターと連携を図り、情報の共有やSVを行う機会を持っています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>		法人内の保育園と園庭等で関わる機会がありました。また、地域の公園等では、近隣の子どもたちと場を共有する機会がありました。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		月に1回程度の面談や母子通園時に加えて、電話メールなど通して日々の子どもの状況や困り感などを共有して共通理解を図っています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>		毎週のグループカウンセリングや月に1回のグループスタディ等を行い、またおたよりやメールなどで学習会の周知など情報提供を行いました。		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に児童発達支援管理責任者から丁寧に説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもの最善の利益を最優先して、個別支援計画を作成しました。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者と個別支援計画と一緒に確認しながら説明を行い、同意を得ました。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		月に一回程度の面談や、電話連絡等を行い、状況に応じた助言と援助を行いました。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		父母の会の活動を支援し、必要に応じて職員も一緒に参加しました。また親子発達支援などで子育ての悩みを共有したり、保護者同士のつながる機会も支援しています。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		面談や電話連絡など受けた相談や申し入れに対して、情報共有し、すぐに対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月のクラスだよりや行事の際にはHPを用いて活動の様子を掲載しました。連絡体制などの情報はがくぶりをういて都度発信を行いました。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		書類は鍵付きのロッカーに保管しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードや構造化を用いる、個別で関わるなどわかりやすい伝え方を心掛けています。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		運動会は地域の協力を得て小学校のグラウンドをかりて行いました。雪かきや掃除など地域への貢献を務めました。		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し、マニュアルに基づいた避難訓練等を行いました。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定しています。また、避難訓練計画を作成して、月に1回避難訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時、アセスメント時などに服薬、予防接種、てんかん発作等について必ず保護者と確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			アレルギーのある子どもはいませんでした。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		法人で安全計画を作成して職員に周知しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を周知しています。また子どもたちと避難訓練を行っていることを発信しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		法人内の安全委員会ではヒヤリハットの分析を行い、再発防止につなげています。また事業所内でも共有し業務改善に努めました。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		アンガーマネジメントに基づいた落ち着きプランの作成や、週に一回アンガーマネジメントの練習を行っています。また、法人研修等で虐待防止に関する研修を行っています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束の三原則を周知徹底し、必要な場合は個別支援計画に記載し、保護者に事前に説明を行い同意を得ています。		